



ドイツ日本研究所 German Institute for Japanese Studies (DIJ)

International Symposium

November 6<sup>th</sup> and 7<sup>th</sup>, 2008 at the Center for the Advancement of Working Women (CAWW)

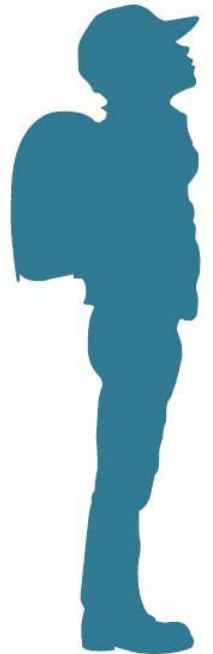
# ***Fertility and Social Stratification Germany and Japan in Comparison***

Friday, November 7<sup>th</sup>, 2008

Section 7: Employment and Education

## **“The Progress of the New Economy and Japan’s Problems with Social Stratification”**

Paper by **Masahiro Yamada**  
(Chūō University)



If you use any information from this paper, please have the courtesy to properly cite this source. Thank you.

# The Progress of the New Economy and Japan's Problems with Social Stratification

*(Original paper in Japanese)*

ニューエコノミーの進行と格差社会の日本の問題

## 1. 私の論点 『希望格差社会』『新平等社会』での主張

- ① 一時点の経済格差のみが問題ではない 希望格差 — 放置は危険
- ② 資本主義の構造転換に基づく現象である 企世界的現象 — 後戻り不能
- ③ 日本の特徴 「短期間に変化」「若者にツケ」「親にパラサイト」 — 先送り
- ④ 先送りのツケがどこにまわるか 少子化、中年パラサイト、絶望する人、等
- ⑤ 対策の前提 「単純定型労働」の担い手をどう処遇するか

## 2. ワーキング・プアという矛盾

「ワーキング・プアというのは、本来、資本主義社会ではあってはならない概念である。——資本主義社会では、普通の人間がフルタイム働けば「人並みの生活」が送れるという前提があった。——だから、社会問題と言えば「失業」であり、失業問題さえ解決すれば、社会は幸福になるはずであった—」(Bauman, 2004: Work, Consumerism and the New Poor)

### \* ワーキング・プアの問題

フルタイム働いても人並みの収入が稼げない、将来稼ぐ見込みもない  
資本主義社会 ワーキング・プアが存在しないことを前提に組み立てられていた

### \* ワーキング・プアがしている仕事 低賃金単純定型労働

「マニュアル通りに行えば誰でもできる仕事」「スキルアップが必要とされない仕事」  
製造業現場 検品、運搬、整理、片づけ、(機械の手足となって動くだけ)  
事務所 データ入力、オペレーター (打ち込んだり、マニュアル対応するだけ)  
流通産業 ファストフードやコンビニの接客(マニュアル化)、運送  
公的サービス 介護、保育(家事の代わり)  
自営ワーキング・プア 伝統的な仕事を従来通りしているだけ(シャッター街)

### \* 低賃金単純定型労働者が大量に発生した理由(ライシュの整理)

グローバルで高度に科学技術化された資本主義の成立(超資本主義)

- ① 科学技術の発達(オートメーション、IT、コンピューター)
- ② 消費者がより安くてよい商品、サービスを求める欲望の拡大  
(労働の規制緩和、グローバル化は、①の結果で、②を促進したにすぎない)

①②の逆転は不可能である以上、低賃金単純労働者の大量発生を防ぐことは不可能

\* 資本主義の構造転換 (工業社会 → ニューエコノミー)

工業時代	単純定型労働者	将来、企業内で昇進する
ニューエコノミー	単純定型労働は、非正規、かつ、そのままでは昇進しない	

希望格差社会

## 2. ワーキング・プアの日本的特徴

① 日本的特徴1 新しい経済が短期間に浸透した (←欧米 徐々に転換)

1998年問題 1990年代後半 日本の構造転換

(自殺の急増、生活保護、出来ちゃった婚、離婚、児童虐待、自己破産——)

金融危機、公共事業削減 — 従来型企業の正社員の削減  
伝統的自営業の衰退

IT化、サービス化 — 専門中核労働者、定型作業労働者の需要双方高まる  
新しいサービス業の発展

規制緩和、自由化 (産業、労働) 企業、組織、団体からはみ出る人々  
企業、組織、団体の「保証機能」が失われる

② 日本的特徴2 若者にツケがまわった (← 欧米 移民や中高年も)

フリーターなど非正規雇用の増大

若者が二極化の影響を直接受ける (20代の年収格差拡大、年収150万以下層増大)

フリーター、派遣社員、契約社員、(偽装)請負、伝統自営業の跡継ぎなど、様々な形で、自力で生活できず、将来展望がない若年「定型作業労働者」が増大していく。  
(欧米では、外国人労働者なども担うことになる)

③ 日本的特徴3 親が若者の生活保障をする (← 欧米 若年貧困者、貧困移民)

パラサイト社会、性役割分業型社会 — 隠される低収入の若者

自立して生活できない若者が多数出現する

日本で大きな社会問題にならなかった理由 「パラサイト・シングル」

多くの低賃金若年労働者でも、男女とも中流の親と同居 比較的豊かに生活できる

男性 — 夢見るフリーター 女性 — 結婚を夢見る (女女格差)

## 3. ツケはどこにまわるか

\* 格差拡大の帰結 — 日本社会の構造問題

① 未婚化・少子化の進行

専業主婦志向の復活 若年パラサイト非正規女性 — 専業主婦以外に希望無し

少子化 著者の生活不安定の代償 (未婚率 30前半男性 47.1%、女性 32.0%)

② 底抜けが進行 パラサイト社会がもたなくなる (ワーキング・プア)

パラサイトできない低収入若年労働者の増大 (ネットカフェ難民など)

親自体が生活困難など子育て中の若者 (就学支援受給者の増大)

低収入、不安定就労、自営業の継続困難 (年金のみでの生活者、生活保障の増大)

- ③ 格差の固定化 子育て中の親の格差拡大の進行 (不安定就労の子育て親増大)  
親自身が希望がない中で子育て 経済的、精神的に余裕がない中で子育て  
児童虐待の温床、学力の二極化
- ④ 社会秩序の不安定化の兆し 希望がもてない人の行き場  
無気力 努力しても仕方がない (バーチャル、ひきこもり、ニート)  
理由が合理的でない犯罪の増大 やけ型 (自己破滅型、不幸の道連れ型)
- ⑤ 中高年パラサイト・フリーターの将来不安  
20年後、パラサイトしていた老親が亡くなった時、生活問題が急浮上  
35-44の親同居未婚者 (親年金パラサイト) 240万人  
「パラサイト虐待」、「死体遺棄一年金詐欺事件」—現在月1件程度将来急増」

#### 4. 格差社会のその後

- \* 下流から下層へ (欧米化)  
パラサイトできない若者が徐々に増えていく → ネットカフェ難民、日雇い生活  
リストラや病気などで転落する中高年も増えていく → 中高年プア
- \* マルクスの予言の再来?  
マルクス時代と現代のワーキング・プアの相違点  
似ている点 働いても人並みの生活を一生送ることができない状態  
(失うものはない)  
似ていない点 労働現場にバラバラに存在する (←→ 工場と一緒にいる)  
連帯できない、仲間ができない (個人化) (毛沢東 ルンペン・プロレタリアート)  
搾取されているわけではない (特に自営ワーキング・プア)  
反抗したら働く企業がなくなる、いなくなる (ウォルマート事件)  
将来の社会ビジョンなし (連帯して社会を変えるという契機がない ←→理想社会)
- \* ワーキング・プアの希望と絶望の個人化  
正社員 (など安定収入の自由業) になる、正社員と結婚するという夢  
反乱は個人的に行われる やけ型犯罪か暴動 (ただ集合的に暴れるだけ)

#### 5. 社会政策上の課題

- \* 第三の道
- ① 市場原理主義 (市場万能) 生産は市場で効率化する マクロ経済はこれでよくなる  
景気がよくなれば問題がなくなることはなく、放置すれば、格差拡大は必須
- ② 社会主義的方策 (市場を否定) 生産段階で保護  
全て労働者を正社員で処遇するのは無理 マクロ経済で破綻することは必至
- ③ 第三の道 市場を肯定することと、市場の結果を肯定することは違う  
格差を生むものであっても、経済改革 (規制緩和) をストップさせることは不可能  
経済改革の結果を放置すれば、社会的問題が生じることは必至

- \* 経済改革による格差拡大が不可避なら、それを社会問題に結びつけない政策が必要  
経済格差の出現を止めるのではなく、生じた格差を是正する政策  
それを、「集合的希望」にしていく必要がある。  
このような社会を築けば、「みんな」が救われる（自分だけ助かるのではなく）  
大胆で、かつ現実的な政策提言が必要。

#### 大前提1 低収入単純定型労働者をなくすことはできない

雇用規制をしようが、職業教育を行おうが「単純定型労働者」はなくなる  
（そのような政策は必要だが、それだけでは不十分である）  
われわれの社会は、単純定型労働なしにはやっていけない

#### 大前提2 教育は雇用を創出しない

教育をしても、それに見合う仕事がなければ、失業者を増やすだけ  
高学歴フリーター      オーバードクター、法科大学院、司書・カウンセラー  
夢見させ教育産業      声優学校、製菓学校

- \* いままでの政策提言の非現実性      この事実を無視してきた  
行政の各省庁、労働団体、企業団体      自分に都合のよい提案しかしない  
なくなれと言え、単純定型労働がこの社会からなくなるような発想  
社会全体を見据えた、「職」と「社会保障」制度の構築が必要

#### \* われわれに突きつけられた課題

- ① 増大する低収入単純定型労働を「誰にやってもらうか」  
（昔は、主婦パートや学生バイト、結婚退職前提の一般職、新入社員の片手間）
- ② 低収入単純労働に就いている人をどのように処遇するか  
（将来の正社員という期待を持たせるか、生活を安定させるか）

欧米 ① 移民と著者と下層と女性のミックス（アメリカ常に流入）  
ヨーロッパ      最低賃金は高い      なんとか暮らせる  
アメリカ      低賃金の職の数だけはある      よりそって生活  
② アメリカ      放置して、専門中核労働者になれるという期待だけ  
北欧      手厚い社会保障      専門中核労働者への上昇サポート

#### \* 二つの事は必要

- ① ワーキング・プアの生活水準の確保  
社会全体で底上げするしかない（個々の企業に責任を押しつけてもうまくいかない）  
マイナスの所得税（基本生活所得保障－自営業にも適応）＋ 最低賃金の上昇
- ② ワーキング・プアの希望の確保  
単純定型労働からの脱出を目指すという個人的希望を叶えやすくする  
単純定型労働でもプライドをもてる場を構築（仕事仲間、趣味、家族生活での希望）